

「見える」しかけで頼りにされる図書館へ：教員と連携した企画展示と情報発信

國見 裕美*

徳島大学附属図書館 蔵本分館

I. はじめに

徳島大学附属図書館蔵本分館（以下、当館）は、医学・歯学・薬学・栄養学・保健科学分野等生命科学系の学部、研究部、共同教育研究施設及び大学病院を有している蔵本キャンパスに立地し、蔵本キャンパス全体をサービス対象とする生命科学系の専門図書館である。当館で取り組んでいる、教員と連携した企画展示「テーマ展示」及び「My Recommendations（私のオススメ本）」についての取り組みとそれらに関する情報発信について報告する。

II. テーマ展示

1. 展示の概要

2012年11月から1階ホールにおいて、時代に即したテーマや複数の分野にわたる学際的なテーマを取り上げ、関連する図書（雑誌やDVD等含む）とiPadで扱える医療関係のアプリを展示している（図1）。担当は職員2名を固定で充て、教員との打ち合わせなど担当のみでは不安なものについては係長も入っている。

当初は図書館職員（以下、職員）が企画し実施していたが、第17回「感染症」（2013年10月）から、職員が蔵書の中から選んだ展示図書案に、専門の立場から追加や削除のチェックをしていただくため、テーマに関連する分野の教員に監修を依頼している。展示中の図書は自由に読むことができ貸出も可能であるが、iPadは盗難防止のため展示ケースに入れ、紹介するアプリのみを操作できるよう設定している。また、展示コーナーには大型タッチディスプレイ（以下、BIG PAD）を設置し、無線LANでiPadの画面と連動させ表示している。大画面にアプリの画面を表示することにより展示に興味を持ってもらうことの他、グループ学習用の個室に設置してある他のBIG PADの利用方法も紹介している。



図1. 展示風景

2. 展示の目的

本展示の目的は、大きく分けて2つある。

1) 新しい気づきの提示

一般的に何かのテーマを設定した場合、その中にはいくつかの要素が含まれることになる。それらに関する図書はそれぞれの分類に従って別々の場所に配架されているが、テーマ展示としてまとめて展示することにより、総合的に捉えることが可能となる。例えば、第21回「ヘルス・コミュニケーション」をテーマとして設定した場合、医療面接、服薬指導、保健指導、患者間の人間関係、多職種連携医療等、様々な要素が考えられるが、利用者の捉え方によっては気づいていない要素もあるだろう。これらを一堂に集めて展示することにより、利用者に対して新鮮な驚きや新しい気づきを提示することが可能となる。

2) 図書館に対するイメージ、期待値の変化

展示は短い周期で入れ替えている。開始当初は2週間、教員監修の展示になってからも原則1ヶ月程度である。当館の利用者は学生が全体の90%を超え、毎日のように訪れる学生も多い。展示図書を彼らの勉学の参考にしてもらいたいという意図はもちろんあるが、「活気ある図書館」というイメージを定着させる効果も狙っている。新しい展示を楽しみに来館する頻度を増やし図書

*Yumi KUNIMI：ヘルスサイエンス情報専門員（基礎）
〒770-8508 徳島県徳島市蔵本町3丁目18番地の15.
kunimi@lib.tokushima-u.ac.jp (2016年3月2日 受理)

館への期待値をあげる目的も、「勉学の参考となる」目的と同じくらい重要なものと考えている。

3. 教員との連携

1) 連携のきっかけ

展示内容について、館長職員連絡会（以下、連絡会）に毎回報告していたが、展示図書リストを見た当時の館長からリスト以外の本も入れた方がよいという指摘があった。これは、本学の専任教授でもある館長の専門分野に近いテーマだったため指摘していただけたことである。この件をきっかけとして、展示内容の質の保証のため教員に監修を依頼してはどうか、ということになった。忙しい教員が自分の研究や業績と関係のない図書館の企画展示のために協力していただけるか心配したが、現在まで依頼した全員の先生から協力を得られている。心から感謝するとともに、協力していただいた先生に報いられるよう、少しでも利用者の目にとまるような、より良い展示にしなければという思いを常に新たにしている。

2) 展示開始までの流れと連携内容

展示開始までの流れを紹介し、その中で教員がどのように関わっているかについて説明する。

①テーマ決め

展示テーマは担当職員が監修を依頼する教員名も合わせた予定案を連絡会に提出し、検討された後承認される。予定案に対して、より適任の教員がいる場合やテーマに関連する教員を誰に依頼していいかわからない場合に館長からアドバイスをいただいている。大きなニュースや教員・学生からの希望に即時柔軟に対応するため、年間予定といった綿密な計画は立てず数回先の展示テーマを予定し、変更があればその都度連絡会に報告している。例えば2015年のノーベル医学・生理学賞を大村智特別栄誉教授が受賞された際には、当初の予定を変更して受賞内容にちなんで展示「天然からの医薬品」を行った。

②展示内容案の作成

テーマが決定すると、展示図書、アプリ候補の選定、ポスターの作成を行う。1名が選定・作成したものを、他の1名がチェックするという形を取っている。

③教員への監修依頼

教員には展示開始の約1ヶ月前にメールで監修の依頼を行っている。教員に秘書がいる場合は、取り次ぎをお願いしている。館長が事前に話を通してきている場合もあるが、ほとんどは、事前に打診することもなく突然の依頼メールを送っているため、少しでも抵抗なく協力してもらえるように、文面には以下の内容を含めている。

●館長の意向であること

職員単独の企画ではなく、館長も了承している企画であるということで、受諾へと気持ちが傾いてもらえるのではないかと期待を込めている。

●監修内容は、図書館職員が選んだ候補図書のチェックのみであること

当初は監修内容についての説明が足らず、教員に「私が展示する本を選ぶのですか」と質問されることも多かった。そう誤解されると、かなり手間と負担のかかる依頼内容と受け取られ、断られてしまいかねないため、監修内容については必ず詳細に書くように心がけている。

次に、監修の了解が得られたら訪問日時について打ち合わせを行う。当然、メールだけでは失礼であるということや多くの教員はテーマ展示を見たことがないため、直接説明した方が企画の内容が伝わりやすいのではないかとということで始めた訪問による打ち合わせであるが、後述するように得られるものが予想以上に大きいと感じている。メールで資料を送ってくればよい、打ち合わせを行う時間が取れない（臨床の先生等日中は予定を入れられないという方もいる）という場合はメールや電話で行うが、2016年2月現在、その割合は全体の約1割である。

④監修

教員を訪問する際には、展示図書案のリスト、ポスター案、iPadを持参する。場所は研究室の場合がほとんどだが、手術室の受付を指定された時もあり、場所がわからず秘書の方に案内してもらう等、色々な方の協力をいただいている。打ち合わせではiPadでテーマ展示のWebサイトを表示し企画説明を行った後、リストとポスターの確認をお願いする。リストをその場でチェックし、新しく図書を紹介してくださる場合もあれば、後日回答をいただく場合や、実際に本を見た方が分かりやすいと来館される場合もあり、教員によって監修方法は様々である。ポスターについては展示タイトル・デザインの他、監修教員の所属と氏名を必ずチェックしてもらっている。教員が複数の所属を持つ場合や複数の教員が監修する場合等、何をどの順番で記載するか判断に迷う場合もあるため、この時に確認を取るようになっている。

⑤監修から展示まで

監修を受けて、展示タイトルや図書リスト、ポスター等に指摘がある場合は修正を行う。図書館に所蔵のない図書を推薦された場合は、絶版等で入手不可能なものを除き購入する。「この本はもう手に入らないでしょうから」と教員所有のものを展示期間中貸していただけるこ

ともあり、非常に感謝している。

打ち合わせが一度で終わらなかったり、内容が方向転換する場合もあり、その際には何度かメールでやり取りしたり研究室を再訪問したりしている。例えば、第44回テーマ展示「更年期を学ぶ」では、当初「生殖医療・更年期医療」というテーマで監修を依頼したが、打ち合わせの席で単独テーマの方が利用者に明確に伝わるのではないかと「更年期」のみに変更になった。それを受けて再作成したリストの確認をお願いしたり、教員に借用する図書を検討して再度借りに伺ったりする等、何度かやりとりを行っている。また、打ち合わせの中でアドバイスを受け、徳島保健所から啓発用パネル等を借りて展示することができた。これまで他機関の協力を受けて展示を行うという発想はなく、新たな可能性に気づかされた。また、先方には非常に親切に対応していただき今後活かせる新たな関係を作ることができた。

4. 情報発信

テーマ展示に関する主な情報発信手段は以下の4つである。

- 附属図書館Webサイトトップページ¹⁾にお知らせ及びアイキャッチ用の画像を掲載
 - 附属図書館Webサイト内に「テーマ展示」Webページ²⁾を設置
 - 当館ブログ³⁾に展示関連記事を掲載
 - 附属図書館メルマガ「すだち」(月1回発行)⁴⁾に「今月のテーマ展示とアプリでStudy!」と題する展示内容の紹介を連載
- 「テーマ展示」Webページには図2のような展示一覧を掲載し、これまで行った展示内容をまとめるアーカイブ的な役割を持たせている。

一方ブログには展示開始前に予告記事やアプリ紹介記

事を掲載し、展示開始後も貸出中の図書が増えてきたらその様子を掲載したり、利用者へのインタビューを掲載したりする等展示の「今」を伝える役割を持たせ、相互にリンクすることで様々な側面から展示を伝えられるよう心がけている(図3)。

5. 展示の効果

1) 教員との連携で得たもの

教員監修を始めた当初は「展示内容の質保証」という目的しか考えていなかったが、続けていくうちに他にも得るものがあると感じるようになってきた。

①図書館を知ってもらえる

打ち合わせの席では、図書館について話題になることも多いが、「図書館は身近な存在です」等という、こちらが嬉しくなるような話は出てこない。「展示をしているとは知りませんでした」「図書館には何年も行ってないです」「最近、建物が新しくなったのですね(当館は2012年にリニューアルオープンした)」はまだいい方で、「図書館に入って来てるんですか」と真剣に訊かれたこともある。「もっと広報すればいいのに」と言ってくさる教員もあり、アピール不足を反省する一方で、監修の打ち合わせは教員に図書館への関心を寄せてもらえる絶好の機会であるとも実感している。展示を見に来てくれたり(図4)、「いい機会だから中を案内してください」と館内を見学されたり、「図書館に入って来てるんですか」と言った教員が「今度本を借りに行ってみます」と言ってくれたりという嬉しいこともあった。監修が少しでも図書館に関心を持ってもらえるきっかけになり、つながりを作ることができればと思っている。

②職員を知ってもらえる

図書館に用事のない教員にとって、図書館職員を個別に認識してもらう機会というのはめったにない。監修の打

| 回 | テーマ | ポスター | 写真 | 実施期間 | 資料展示・アプリ | 監修者名 |
|----|-----------|------|----|---------------------|---------------------------------|---|
| 45 | 花粉症・アレルギー | | | 2016/2/17～2016/3/31 | 展示資料リスト アプリ解説(1) アプリ解説(2) | 武田憲昭 北村嘉章 (耳鼻咽喉科学分野) |
| 44 | 更年期を学ぶ | | | 2016/1/13～2016/2/16 | 展示資料リスト アプリ解説 | 安井敏之 (生殖・更年期医療学分野) |
| 43 | 天然からの医薬品 | | | 2015/12/3～2016/1/12 | 展示資料リスト アプリ解説 | 杉田良樹 田中直伸 (生薬学分野) |
| 42 | 疼痛の病態と治療 | | | 2015/11/4～12/02 | 展示資料リスト アプリ解説 | 曾我朋宏 (地域医療人材育成) |
| 41 | ホスピス緩和ケア | | | 2015/10/1～11/03 | 展示資料リスト アプリ解説 | 武知浩和 (徳島大学病院がん診療連携センター) 荒瀬友子 (近藤内科病院緩和ケア病棟長) |

図2. テーマ展示一覧(抜粋)



図3. 当館ブログ記事の一例

ち合わせに行くことで、「図書館の人」ではなく「図書館の〇〇さん」と名前や顔を覚えてもらえるかもしれない。なにか聞きたいことがある時に、その職員を思い出して頼ってくれるかもしれない。近年『「あなたから買いたい」といわれる販売員がしている大切な習慣』という接客術の本が評判になったが、「あなたから買いたい」ならぬ「あなたに聞きたい」につながる一步になればと思っている。

③蔵書の充実

教員が推薦した図書で図書館に所蔵のないものは、絶版等で入手不可能なもの以外は購入するようにしている。当館では教員に学習用図書の選定を依頼しているが、予算の都合もあり教科書類の整備が中心になっている。テーマ展示では「教科書ばかり並べてもね」と少し違った視点で学生向けの図書を推薦してもらえるため、蔵書内容に厚みや広がりが生まれている。

2) 学生からの反応

展示を始めると、学生から意見箱に投書が入るようになった。「1階のアプリ紹介が、いつも多彩で面白いです。もっと充実させてください」といった展示内容についての感想の他、「BIG PADと個人のiPadを用いて学習の効率化を図りたいと思っています。図書館の入口で展示しているようなことを、グループ学習室でもできませんか?」といった、展示にヒントを得た提案もあり、その結果グループ学習室の環境整備を行う等のサービス向上につながっている。2014年度の学生懇談会では「テーマ展示のテーマについて、学生の意見も取り入れてほしい」という意見が出された。これを受けてテーマ展示専用の意見箱を設置し、意見が入るとなるべく取り上げてテーマを決めるようにしている。また、学生はやはり監修教員に関心があるようで、「〇〇先生の監修だって」と言いながら展示に近づき、本を手にとってい

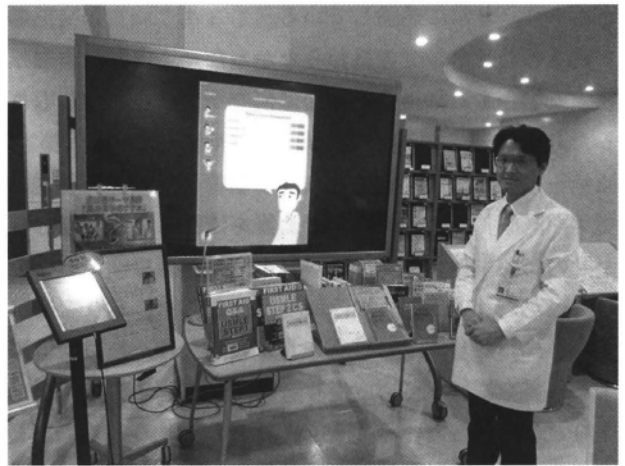


図4. 監修教員の来館

る光景をよく見かける。

3) 貸出回数の増加

展示図書について、展示開始前と開始後1ヶ月間の貸出回数合計を比較した結果、(2016年2月現在実施が終了している)44回の展示中32回で展示後の貸出回数が増加していた。各回における貸出回数及び増加率は表1のとおりである。

当館の蔵書は専門書が多いため、いくら展示で目立つからといってその時必要でなければ借りられないのではないかと、したがって貸出冊数の増加にはつながりにくいのではないかと考えていた。しかし読み物的な図書が多くある程度貸出が増えるだろうと予想していた「こころの健康」(51冊展示し、貸出回数は1から18に増加)のようなテーマだけでなく、学術書が中心で借りてくれる人がいるだろうかと心配していたテーマ「睡眠のメカニズムと病気」でも37冊展示して貸出回数は3から20に増加するなど、予想に反した嬉しい結果となった。

貸出回数の増加により、一つ目の目的である「新しい気づきの提示」は達成できているのではないかと考えている。もう一つの「図書館に対するイメージ、期待値の変化」については、前述のとおり学生から好意的な反応が寄せられてはいるが、利用者アンケート等で定量的な調査を行うことも検討する必要がある。

II. My Recommendations

1. 展示の概要

2014年3月から1階ホールにて、教員や学生によるオススメ本の展示を行っている(図5)。テーマ展示と同じ職員2名で担当している。

本学では教職員推薦による「新入生にすすめる私のこの一冊」という企画を附属図書館全体で実施している

表1. テーマ展示前後1ヶ月の貸出回数比較表

| テーマ | 展示冊数 | 貸出回数 (展示開始 前1ヶ月) | 貸出回数 (展示開始 後1ヶ月) | 貸出増加率 |
|------------------------|------|------------------------|------------------------|----------|
| 第1回(糖尿病) | 48 | 17 | 25 | 47.06% |
| 第2回(がん) | 34 | 5 | 14 | 180.00% |
| 第3回(おうちごはん) | 45 | 8 | 28 | 250.00% |
| 第4回(キャリア・デザイン) | 51 | 0 | 21 | 展示前0冊 |
| 第5回(再生医療) | 39 | 4 | 11 | 175.00% |
| 第6回(災害医療) | 41 | 1 | 4 | 300.00% |
| 第7回(アプリでStudy!) | 10 | 6 | 2 | -66.67% |
| 第8回(漢方医療・漢方薬) | 41 | 3 | 8 | 166.67% |
| 第9回(ビジュアル系の本) | 57 | 6 | 21 | 250.00% |
| 第10回(伝記) | 40 | 4 | 13 | 225.00% |
| 第11回(看護のスキルアップ) | 43 | 11 | 11 | 0.00% |
| 第12回(薬学のスキルアップ) | 40 | 2 | 11 | 450.00% |
| 第13回(摂食・嚥下障害) | 37 | 1 | 3 | 200.00% |
| 第14回(オープンキャンパス) | 45 | 20 | 13 | -35.00% |
| 第15回(ヘルス・プロモーション) | 35 | 0 | 5 | 展示前0冊 |
| 第16回(運動) | 38 | 0 | 11 | 展示前0冊 |
| 第17回(感染症) | 41 | 10 | 8 | -20.00% |
| 第18回(栄養管理) | 37 | 14 | 12 | -14.29% |
| 第19回(在宅看護・地域看護) | 50 | 9 | 6 | -33.33% |
| 第20回(医療倫理・医療安全) | 49 | 1 | 4 | 300.00% |
| 第21回(ヘルス・コミュニケーション) | 43 | 2 | 2 | 0.00% |
| 第22回(心電図・心エコー・聴診) | 49 | 13 | 29 | 123.08% |
| 第23回(臨床留学のすすめ) | 38 | 2 | 28 | 1300.00% |
| 第24回(研究倫理とレポート・論文の書き方) | 50 | 11 | 36 | 227.27% |
| 第25回(地域医療と総合診療医) | 37 | 4 | 12 | 200.00% |
| 第26回(薬害・食品による健康被害) | 32 | 0 | 0 | - |
| 第27回(環境保健) | 18 | 0 | 1 | 展示前0冊 |
| 第28回(消化器系の癌) | 53 | 5 | 13 | 160.00% |
| 第29回(医学史) | 40 | 0 | 2 | 展示前0冊 |
| 第30回(こころの健康) | 51 | 1 | 18 | 1700.00% |
| 第31回(睡眠のメカニズムと病気) | 37 | 3 | 20 | 566.67% |
| 第32回(NST) | 50 | 10 | 10 | 0.00% |
| 第33回(ウイルス) | 35 | 6 | 6 | 0.00% |
| 第34回(味覚と嗅覚) | 39 | 8 | 16 | 100.00% |
| 第35回(放射線安全管理) | 47 | 2 | 2 | 0.00% |
| 第36回(ライフサイエンスのための物理化学) | 41 | 0 | 2 | 展示前0冊 |
| 第37回(研修医の心得) | 50 | 15 | 35 | 133.33% |
| 第38回(漢方) | 46 | 1 | 6 | 500.00% |
| 第39回(ゲノム) | 21 | 3 | 13 | 333.33% |
| 第40回(知ブラe) | 20 | 1 | 4 | 300.00% |
| 第41回(ホスピス緩和ケア) | 52 | 8 | 12 | 50.00% |
| 第42回(疼痛の病態と治療) | 39 | 8 | 8 | 0.00% |
| 第43回(天然からの医薬品) | 42 | 2 | 6 | 200.00% |
| 第44回(更年期を学ぶ) | 23 | 1 | 5 | 400.00% |



図5. 展示風景

が、こちらが「大学を卒業するまでに幅広い教養として読んでおいてほしい」図書の推薦であるのに対し、My Recommendationsは推薦者自身が「読んでよかった」「感動した」「面白い」「勉強の参考になった」図書を推薦してもらおうという、より自由度の高いスタンスを取っている。

2. 展示の目的

本展示の目的は、テーマ展示と同じく「(オススメ本という)新しい気づきの提示」「(様々な企画展示を行うことによる)図書館に対するイメージ、期待値の変化」もあるが、やはり一番の目的は学生の読書推進である。そして「どこかの誰か」ではなく「〇〇先生が」紹介しているという要素が、読書に興味のない層、読書対象を探している層の両方にアピールできるのではないかと考えている。

3. 教員との連携

企画の性質上、本好きな教員に当たりをつけて依頼した方がよいということから、募集は館長の声掛けや附属図書館運営委員会でのお願いが主である。承諾の得られた教員には原稿見本をメールにて送付し、記入してもらっている。紹介文はPOPにして読みやすい300字程度でお願いしているが、任意で字数制限なしの長文バージョンも書いていただき、当館ブログ³⁾に掲載している。

4. 情報発信

情報発信は、附属図書館Webサイト内に「My Recommendations」Webページ⁵⁾を設置するとともに、当館ブログに展示関連記事を掲載して行っている。テーマ展示と同様、Webページには図6のような図書リストを掲載し、これまで紹介された内容をまとめるアーカイブ的な役割を持たせている。

一方ブログには紹介文の他、その図書が新聞で紹介されていたことについての記事を掲載する等関連情報も発信し、展示の「今」を伝える役割を持たせ、相互にリンクすることで様々な側面から展示を伝えられるよう心がけている(図7)。

5. 展示の効果

読書推進を第一の目的とする本展示では、図書が貸出されているかどうか重要な評価基準になってくる。展示図書の2014年度における平均貸出回数は約5回で、分野別のランキングで上位に入っている図書も多く、当館における人気コーナーになっている。

Ⅲ. まとめ

本の展示に必要な作業は「本を並べる」、ただそれだけである。「ただそれだけ」のことが、アイデアや工夫次第で、教員とのつながりや、図書館への興味・期待、新しい図書との出会い等、様々な形に広がっていく。展

示の力を感じると同時に、もし惰性で続ける何の工夫もない展示なら、誰からも見向きもされないつまらないものになるのだろう、という怖さも感じている。展示から広がる可能性に気づくアンテナを大切に、利用者に還元できる形にしていくことで、頼りにされる図書館への挑戦を続けていきたい。

参考文献

1) 徳島大学附属図書館蔵本分館 [internet]. <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/kura.shtml> [accessed 2016-02-22]
2) 徳島大学附属図書館蔵本分館テーマ展示 [internet]. <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/siryou/theme/> [accessed 2016-02-22]
3) 徳島大学附属図書館蔵本分館日誌 [internet]. <http://tokudaibunkan.blogspot.jp/> [accessed 2016-02-22]
4) 徳島大学附属図書館メールマガジン「すだち」 [internet]. <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/> [accessed 2016-02-22]
5) 徳島大学附属図書館 My Recommendations【蔵本分館】 [internet]. http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/support/my_recommendations/branch/ [accessed 2016-02-22]

| 番号 | 書名 | 著者名 | 出版社 | 推薦者 | 推薦時期 |
|----|---------------------------|-------|---------|-------------------------|--------|
| 71 | 老いはい美人：女性ホルモンできれいになる! | 清水一即著 | 西村書店 | 清水一即(元徳島大学准教授・昇和診療所院長) | 2016.2 |
| 70 | 天災から日本史を読みなす：先人に学ぶ防災 | 巖田道史著 | 中央公論新社 | 本田壮一(医学部臨床教授・美波町由岐病院院長) | 2016.1 |
| 69 | 世界のエリートが学んできた「自分で考える力」の授業 | 狩野みき著 | 日本実業出版社 | 吉本勝彦(分子薬理学分野教授) | 2016.1 |

図6. My Recommendations図書リスト (抜粋)

2015年9月14日月曜日

My Recommendationsコーナーの人気本、新聞でも紹介されています

6月23日(火)のブログ記事でご紹介しました。坂東ハートクリニック院長、坂東正章先生より推薦の図書2冊。

My Recommendations No.60
『血圧は下げられる、降圧剤は止められる：心臓血管外科医の高血圧管理術』
My Recommendations No.61
『坂東ハートクリニックの高血圧教室』
(坂東先生にお寄せいただいたおすすめコメントはこちら)

好評をいただいております。貸出中のことが多いのですが、昨日の徳島新聞でも紹介されているのを見ました。

記事では坂東先生が、医師・管理栄養士・看護師がチームとなって、患者さんの生活改善を継続してサポートすることの重要性について話されています。

図7. 当館ブログ記事の一例

Library Exhibitions in Collaboration with Teachers and the Provision of Information

Yumi KUNIMI

Tokushima University Life Sciences Library. 3-18-15, Kuramoto-cho, Tokushima 770-8508, JAPAN

Abstract: At the Tokushima University Life Sciences Library, we perform two exhibitions in collaboration with teachers. One is a planned exhibition that began in November, 2012 and as of February 2016 has been performed 45 times. The teachers provide advice on which books should be selected for the exhibition. The second is a recommended books exhibition. This exhibition began in March 2014, and as of February 2016, 70 books have been recommended. The teachers introduce books that have impressed them. We provide information on

these exhibitions through the library's webpage and blog. A list of displays is placed on the webpage, and the display contents are archived. On the other hand, a real-time article is placed in the blog. The webpages are linked to each other. This article introduces these actions.

Keywords: library exhibition, providing information, collaboration with teachers
(*Igaku Toshokan*. 2016;63(2):151-156)